

令和 8 年度 第 2 回海陽町学校のあり方検討委員会
議事録

日 時：令和 8 年 8 月 2 4 日（月）18:30～19:40

場 所：阿波海南文化村 海南文化館 大会議室

出席者：委員 16 名中 9 名出席

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、吉田課長補佐

（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子 谷口

■ 会次第

1 開会

2 教育長あいさつ

3 議事

（1）資料 1－1 住民説明会実施概要

資料 1－2 意見一覧表

資料 1－3（参考）説明資料

（2）海部小・海南小統合準備委員会（仮称）について

資料 2 今後の統合準備委員会の進め方

（3）その他

4 事務連絡

5 閉会

■ 議事（１）資料１－１住民説明会実施概要、資料１－２意見一覧表、資料１－３（参考）説明資料について

（皆津委員長）

議事に入っていきたいと思います。議題（１）住民説明会の開催結果報告について、事務局よろしくをお願いします。

（事務局）

それでは、資料１－１「住民説明会概要」をご覧ください。

１ページをご覧ください。令和８年７月１３日から１５日までの間、町内３地区で開催した住民説明会の概要です。穴喰地区は７月１３日、海陽町役場穴喰庁舎にて、海部地区は７月１４日、海陽町役場海部庁舎にて、海南地区は７月１５日、海南文化館大会議室にて、それぞれ開催いたしました。

参加住民数は、穴喰地区１４人、海部地区３９人、海南地区３１人の合計８４人でした。

２ページから５ページは、各地区で実施したアンケートの自由意見を、地区ごとに「合意形成について」「準備委員会の進め方について」で整理したものです。

２ページ目の穴喰地区では、学校のあり方検討委員会の構成やメンバー選定基準への質問、住民説明会の周知・回数について少ないのではとの意見、パッケージスクール（小中一貫校）の検討状況に関する質問、統合後の学校運営や防災に力を入れてほしいとの要望などが挙げられていました。

３～４ページの海部地区では、統合が前提で進んでいるという受け止めや、ICT教育による複式学級回避の可能性を問う意見がある一方、データを見れば統合はやむを得ないとする意見も見られました。また、海部小学校の教育の質やICT環境、海部小学校の跡活用、児童への精神的ケアなど、統合後への懸念が多く出されました。

５ページの海南地区では、１校１校体制が自然だとする意見や、複式学級のデメリットについてより丁寧な説明を求める意見、海南小学校の立地の防災面での懸念などが出されました。

６ページから１０ページは、「令和３年から合意形成を進めてきたことについてどう思うか」という設問に対する自由記述を、地区別・回答者別に整理したものです。

６ページの穴喰地区では、説明会を重ねてきたことを評価する声がある一方、周知や理解が十分であったかについて疑問視する意見も見られました。

６ページ下段から８ページの海部地区では、説明の場は評価しつつも、合意形成の実質が伴っているかへの疑問、海部小学校への愛着や統合への心情を語った意見が多く寄せられました。一方で、児童生徒の減少を踏まえればやむを得ないとする意見も一定数ありました。

８ページから１０ページの海南地区になりますが、丁寧な検討を評価する意見のほか、学校のあり方検討委員会の構成や意思決定プロセスの透明性を問う質問も出されました。

１１ページから１４ページは、「学校再編準備委員会の設置・運営についてどう進めるのが望ましいか」という設問への自由記述です。

共通して多く見られるのは、委員会メンバーの多様性・公募制を求める意見、子ども自身の意見聴取や委員参加を求める意見、協議内容の広報・情報公開を求める意見です。

体操服やスクールバスなど決め事を早く決めて欲しいとの意見、特別支援を要する児童生徒への

配慮、過去の統合（浅川小・海南小・川上小、海部西小・海部東小など）のノウハウの活用を求める意見も出されました。

つづいて、資料１－２の、「意見一覧表」をご覧ください。そちらは、住民説明会の「意見」と「質問」に分け、テーマ別に整理したものです。

１ページから２ページは意見の一覧です。テーマは、「あり方検討委員会について」「準備委員会の進め方について」「子どもへの対応」「海部小の教育・児童の特徴に関して」「海部小の特色の引継ぎについて」「統合について心配なこと」「その他」の順に意見を整理しました。

特に１ページの１番下の「海部小の特色の引継ぎについて」では、ICT 教育環境や特別支援体制が統合後も維持されるかという不安、海南小学校への引継ぎに際して海部小学校の教員配置を増やしてほしいという意見が挙げられました。また２ページの「統合について心配なこと」では、海南小学校前の通学路の交通安全や、放課後子ども教室として利用予定の海南こども館の修繕・耐震対応についての意見が挙げられました。

３ページからは質問の一覧です。「学校統合の見直しについて」「今後の再編統合の動きについて」「意見聴取、合意形成について」「統合後の学校について」「跡活用について」「その他」に整理しました。

具体的には、複式学級後に児童数が回復した場合の対応、移住者増加による統合見直しの可能性、穴喰小・穴喰中の将来的な統合見通し、統合後のクラス人数は何名程度か、バス通学の見通し、支援学級についてどのように考えているのか、放課後子ども教室、制服はどうなるのか、浅川小・川上小の土地活用はどうなっているのか、海部小学校の跡活用の見通しなどの意見が挙げられました。

つづいて資料１－３の「住民説明会資料」ですが、こちらは住民説明会当日に配布・説明した基礎データと方針の参考資料です。これは第１回委員会で説明したものです。説明は割愛します。

以上で、説明を終わります。

（皆津委員長）

ただ今、事務局より３地区での住民説明会の開催結果の報告をしていただきました。住民説明会に参加された方々の意見や質問事項について、皆様のご意見はいかがでしょうか。

３地区で穴喰地区 14 人、海部地区 39 人、海南地区 31 人の計 84 人の参加があったようです。人数的には、海部地区が多いということがこの集計からもわかります。

考え方によってはそれだけ関心があるというか、将来の子どもたちの行き先が気になるという見方もあるのではないかなと思います。

それも含めまして、事務局からの説明について質問等、受けたいと思います。

（長尾委員）

質問の一覧がありますが、質問への回答はしていないのでしょうか。

(事務局)

アンケートの回答をまとめたものを9月にホームページで公開します。海陽町の広報誌でも掲載します。

(皆津委員長)

説明会での質問に対する回答はいかがですか。

(事務局)

これまでのあり方検討委員会の経緯を、お話させていただきました。

ホームページには、あり方検討委員会のこれまでのすべての議事、それから資料、議事録すべて掲載しています。

(亀山委員)

アンケートの中で賛成と反対の比率なども出ていますか。

(事務局)

賛成反対の比率について、出すつもりは今のところございません。

(谷本委員)

私は海部地区の説明会に家族と一緒に住民の1人として参加していました。海部地区地域住民の方、PTAの方が参加されていて、質問やご意見もたくさんあって、1回目の説明会より、活発な意見交換がされたと思います。あり方検討委員会の結果は公開していると伝えましたが、地域住民には周知になっていないのではと思いました。

放課後子ども教室について、海部地区の時には海南ですと思っていますという感じだったんですが、海南地区で説明を受けた人は別々にするかもしれないという意見を聞いたということで、保護者からどうなっていくんでしょうかという質問を受けました。放課後子ども教室について、今後の方向性を議論してほしいと思っています。

(事務局)

放課後子ども教室については、あり方検討委員会、海部小学校、海南小学校の統合準備委員会、それからあと海部小学校の跡活用検討委員会の中で方向性が出てくると思いますので、ご意見いただいたとお話ししていこうかと思っています。

(皆津委員長)

ホームページだけでなく紙媒体などで、より町民に行き渡るように、工夫ができたかと思います。

それでは今後、令和10年度の海部小学校、海南小学校の円滑な統合に向けた次の段階として、新たに統合準備委員会を立ち上げる方向で進めてよろしいでしょうか。

(委員全員「はい」)

(皆津委員長)

承認ということで、それではよろしく願いいたします。

■ 議事（２）海部小・海南小統合準備委員会（仮称）について 資料２今後の統合準備委員会の進め方

(皆津委員長)

今後、合意形成が得られたものとして、令和 10 年度統合校の開校に向けて、準備委員会を進めていくことになります。準備委員会について、事務局より資料の説明があつてから、委員の皆様から、ご意見をいただきますので、よろしく願いいたします。

資料２の説明をよろしく願います。

(事務局)

では、資料２の「再編統合に伴う準備事項について」をご覧ください。

１ページでは、学校再編準備委員会（仮称）の構成員として、学校関係者では海南小・海部小の校長・教頭４名、穴喰小・海陽中・穴喰中の校長３名。保護者代表は、かいう保育所・二葉保育園・穴喰保育所・かいうこども園・穴喰小・海陽中・穴喰中の PTA 会長７名、海南小・海部小の PTA 会長・副会長４名。住民代表者として海南・海部・穴喰の各地区から５～７名。住民代表者ですが、何名か公募も考えております。次に、役場職員として教育委員会・行革政策課・子どもあゆみ保健課から５名という構成案です。

運営体制としては、委員長・副委員長・委員で構成する「全体会」、「総務部会」「学校運営部会・PTA 通学部会」の３部会を設置し、部会長・副部会長を置く案です。

次の２ページ目をお願いします。協議事項ですが、総務部会で学校名称、校歌、校章、校旗、体操服、閉校式、開校式、記念誌、記念品、歴史財産等。学校運営部会では、授業、各種事業の調整、学校運営、教育内容、学校設備、備品、交流事業、学校行事、地域関連行事等。PTA 通学部会では、通学路、通学方法の検討、通学路見守り体制、スクールバス運行、安全対策、また PTA 組織、PTA 役員規約の見直し、会計事務や地域の交流事業、地域行事等です。

１ページの１番下になりますが、別組織として「海部小学校跡活用検討委員会（仮称）」を立ち上げる予定です。

２ページは全体スケジュール案です。令和８年度・令和９年度の月別スケジュール案となっています。

３ページから４ページは、資料１－３「住民説明会資料」に掲載したものと同じです。平成 21 年度の海南中学校、海部中学校統合検討委員会、旧海南町立三小学校統合検討委員会、平成 22 年度の高陽町立小・中学校統合執行委員会の委員構成と協議事項を参考としました。

以上で、説明を終わります。

（皆津委員長）

事務局から準備委員会案について、説明していただきました。統合というのは本当に大変なことだと思います。学校がなくなる、これを1つにするということは、本当に子どもの思い、また地域の方々の思いがあると思います。私は、学校はその地域の文化だと思っています。いかに統合して、より子どものために考えていくか。これは私たち町民の一人ひとりの責任で、将来を担う子どもたちへの責任として、様々な考えを実行していかなければいけないと常々考えております。

ご意見ありませんか。

（瀬尾委員）

1 ページ目の海南小学校・海部小学校統合準備委員会（仮称）の構成員案に、PTA 会長、副会長 4 名と書いてあるのですが、海部小学校の場合は PTA 会長、副会長 2 名が小学校 6 年生の保護者で構成されて、あと副会長 1 名が 5 年生の保護者で構成されているんです。令和 10 年度を目途にするとなると、合併に関わっていない学年が構成員になっているので、もし例えばもっと下の学年の方が私も構成員になりたいと言った場合、代理というのは認められるのでしょうか。

（事務局）

代理ではなく、委員さんとして構成員に入っていただきたいと思っています。

あくまでも構成員案でありますので、今後令和 10 年以降の保護者になる方を構成員として入れることも考えていきたいと思っています。

（皆津委員長）

将来的には構成員ももちろん代わっていくということで、事務局の説明でよろしいでしょうか。

（辻委員）

構成員案の住民代表は、海南地区と海部地区と穴喰地区で 5～7 名なのか。この各地区から 5～7 名なのか。それと公募もあるということです。公募するにしてもどのような方法で公募するのかなということも教えていただけたらありがたいなと思います。

（事務局）

住民代表として考えているのが、海南地区、海部地区それぞれ 2 名ずつで 4 名、穴喰地区が 1 名で、公募も 2 名ほどで、5～7 名と考えております。

公募については、10 月 1 日の広報誌とホームページで公募をしたいと考えております。

(皆津委員長)

事務局は、海南地区で2名、海部地区で2名、穴喰地区で1名、公募では2名を考えているということで、公募の方法については広報誌等により、公募するということで考えているということです。

(谷本委員)

委員長選出を10月の広報で公募すると、遅れるのではないかと思います。説明会の時も住民から早く説明会をしてほしかったという声や、いつから住民会議が始まるのかと聞かれたり、遅いと言われたりするので、できるだけ早く住民意見とかも聞いて、早く進めていけたらいいなと思います。

(皆津委員長)

住民の方の気持ちもよく分かります。早め早めに住民の方に、知らせていくことが大切だと思います。

(事務局)

住民説明会の時に意見をいただき、公募を考えました。スケジュール的には一番早くて10月の広報誌になります。

(長尾委員)

PTA 会長や副会長について、編成は年度をまたぐと代わるのですが、その時は、代えていくのですか。

(皆津委員長)

年度が変わったら、前の経過経緯を知らない保護者もいるということですが、引継ぎはどうしますか。

(教育長)

構成委員の PTA 会長や副会長の話ですが、私もなるべくなら代えずに行く方がいいのかなと思っていますので、各学校の先生とご相談させていただきたいと思っています。

(皆津委員長)

年度をまたぐと、代わるだろうし、引継ぎは十分、上手にやってきたと思いますが、課題も多いと思います。

構成のことで案が出たのですが、見ていただいてどうでしょうか。ご意見があったらお聞きしたいと思います。

（谷本委員）

関係者の小・中学校の校長先生と教頭先生が出られるとのことですけど、管理職2人が出られたら大変だと思うし、実情なかなか来れないこともあるのではないかなというのと、小学校の校長先生や教頭先生も地元の先生じゃなくて、3年に1度代わるので、地元の先生がいいのではないかなと思います。

（事務局）

それも含めて、学校と相談していききたいと思います。

（岡澤委員）

会は、夕方の時間帯に行いますか。働き方改革のこともあるので、夕方での開催は難しいと思います。

先程地元の先生がという話がありましたが、地元ではない会議に参加をしても大変勉強になって、いろいろと学ぶことも多かったので、地元でない先生方でも今勤めている場所でいろんなご意見をいただけたと思うので、大丈夫かなと思います。

ですが、毎回このフルメンバーで会議をするというのは難しいので、工夫ができればと思います。

（事務局）

相談しながら、組み合わせも考えていききたいと思います。時間帯も季節によって設定していますが、お仕事されている親御さん方もいらっしゃるので、その辺りの兼ね合いも考えながら、バランスを取って開催の時間など考えていききたいと思います。

（教育長）

準備委員会の全体会は多くはないと思っています。部会中心に話し合いをしていかななくてはいけないので、部会での意見を吸収し、全体会で意見交換していき考えております。

（岡澤委員）

人員が増えすぎてもという問題もありますが、学校再編に移る時に学校運営協議会に参加している地域の方々に入っていただくのはどうですか。

（皆津委員長）

各小学校、各中学校にあるわけですね。

（岡澤委員）

宍喰地区は、宍喰小・中学校で1つの学校運営協議会で一緒にやっています。

（事務局）

宍喰地区は、チェーンスクールなどもあり、連携していることが多いので、学校運営協議会を1つという形にしている。あとは各小中学校にはすべて学校運営協議会があり、どういうふうに学校運営を進めるのかというのを地元の方ももちろん含めた中でご議論いただいているという形なので、地元との対話という部分では工夫があるかと思います。

（皆津委員長）

宍喰の子どもを語る会が元になっています。

（長尾委員）

部会が3つもあるんですけど、部会ごとに構成案を提示した人が割り振るんですか。

（事務局）

30人だとしたら3つの部会に分かれていただくんですけど、意見伺いたい時とか、部会同士の移動もあり、参加して出席していただくことも考えています。

（教育長）

メインの部会に登録して、人によってはすべての部会に意見を出す方も出てくる可能性があります。

（谷本委員）

部会は別の日に参加ということですか。

（教育長）

はい。委員会の構成員の人数が30人、結構多いと思うんですけど、それぞれの構成員の方が、意見を集めてきていただけるような方向が一番いいと思いますので、その辺も含めていろいろ相談させていただけたらと思っています。

（皆津委員長）

具体的には部会に出る前に、各学校でその学校の保護者、教員の意見を集約してから部会に出るというような形になりますよね。

（瀬尾委員）

構成員の決定っていうのは、教育委員さんの方に提出させていただいて、その後決定ということですか。

(教育長)

ある程度決まっている内容や構成になると思います。あり方検討委員会で確定するのは難しいですが、相談しながら決めていきたいと思っています。

(皆津委員長)

学校規模も違いますし、内容を決めるのも難しいと思います。そのような段取りで、考えてもらえればと思います。

(瀬尾委員)

部会の所属先への希望は対応していただけるのでしょうか。

(教育長)

第1回で相談しながら決めていきたいと思っています。主担当と代わりたいところに入っていていただくことを考えています。

(吉成委員)

統合した時に、県からの補助、町からの人的補助は考えられているのでしょうか。

(教育長)

統合の場合は県から加配があるのですが、まだ確定はしていません。今までの過去の統合校には加配措置がありました。町費は統合がスムーズに進んでいくよう支援体制をとっていければと思います。

(吉成委員)

小さい子どももいるので、できるだけ目が行き届くように。特に海部小学校の児童については、環境がだいぶ変わりますので、その辺りを少しでも目が行き届くように、人的配慮などをしていただければと思います。

(教育長)

町費の方については、町長部局と協議しながら、考えていきたいと思っています。

(皆津委員長)

加配という言葉と町費という言葉が出ましたが、加配は県の方が、何名かプラスしてくれるという事業です。町費でというのは海陽町から出してもらって、教員が入れるかということです。海陽町には教員もたくさんいらっしゃって、教育的には非常に恵まれているという感想を私は持っております。

(事務局)

町費は予算をいただき、近隣よりは多く教員を雇っています。住民説明会などでも、海部小学校の ICT の教育環境、特別支援の体制を統合後も実施するようにと意見がありましたので、県費は約束できませんが要望したいと思います。町費の教員については、できるだけ教員の配置比率を増やしていくことで、児童生徒の安心のために何かできればと思います。

(教育長)

海部小学校の特徴が統合した後も維持できるように、しっかり支援をしてまいりたいと考えております。

(谷本委員)

準備委員会の委員さんのことですが、統合後も子どもたちにとって一番より良い学校になるように、その大人の意見だけでなく、子どもに近い意見や、子どもを一番考えてより良い意見がたくさん出されるように、保護者の方とかの公募でたくさん入ってもらえたらと思うので、いろんな意見が出されるように 30 人では、10 人ずつ分けたら欠席などもありたりしたら少ないんじゃないかなと思います。

子どもの親の意見だけでなく、子どもの意見もたくさん出たらいいなと思います。

(皆津委員長)

準備委員会に出る前に各学校で意見を吸い上げてきてくれるといいと思います。各学校で校長中心に各学校で話し合ってもらって、まとめてもらうようにしたらいいと思います。

(教育長)

今日はいろんな意見をいただいておりますので、最終は定例教育委員会で諮り、一番いい形ができるようにしっかり相談していきたいと思います。

(三浦委員)

海部地区の説明会に参加したのですが、意見を受けとる教育長、次長、吉田さんの対応に感心しました。昭和 39 年に私が 6 年生の時に学校を移ってきたんですけど、説明会の時にそのことが浮かんできて、懐かしかったです。残してほしい気持ちはありますが、時の流れで仕方がないかと思いますが、それを仕方がないことで済まらずに、みんなが考えていることに感心しました。

(皆津委員長)

仕方がない統合よりも、より良い統合を考えていかなければならないし、地域情勢のこと、子どもたちのことを考えて、進めていかなければと改めて思いました。

他にないようでしたら、事務局お願いします。

(事務局)

あり方検討委員会ですが、今回で最後で、次の段階の統合準備委員会を進めていくことになりました。

(皆津委員長)

あり方検討委員会も今回で最後となり、次は統合準備委員会に移るということです。

ありがとうございました。

閉会